

ビジネスアーキテクチャおよび ビジネスアーキテクトの主な役割 概要

(株)クリエビジョン

代表取締役

塩田宏治

バックグラウンド

塩田宏治 クリエビジョン代表取締役

◆マルチ視点

NTTデータでITベンダ側のSEの立場

ソニーでビジネス(業務)部門側の立場

ソニーグローバルソリューションズで情報システム部門側の立場

◆本タスクフォースに関連する実務経験

・PMO組織リーダとして、プロジェクトの開発側はもちろんのこと、ビジネス側の業務改革活動へのコミットメントと活動推進が価値実現の肝として推進

・ビジネスアーキテクチャ&アナリシス領域のCOEリーダとして、ビジネスアーキテクチャ領域とビジネスアナリシス領域の組織的活動を推進

・様々な企業様のビジネスアナリシス組織およびアーキテクチャ組織の育成や活動支援を実施

ビジネスアーキテクチャとビジネスアナリシスにおける活動経歴

TOGAF® Enterprise Architecture Practitioner (TOGAF®10)資格

TOGAF® Business Architecture Foundation (TOGAF®10)資格

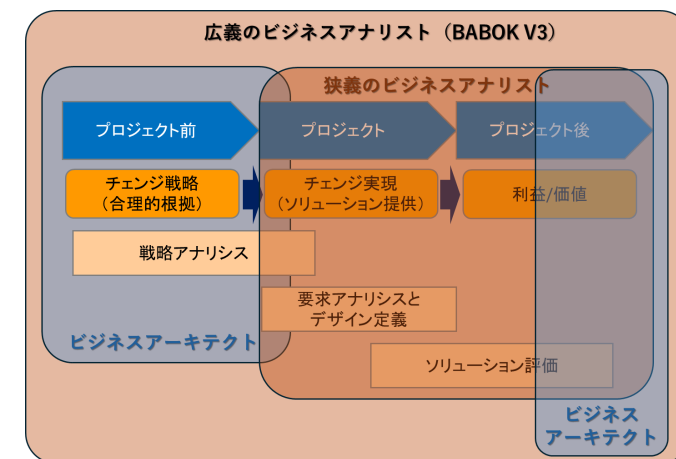
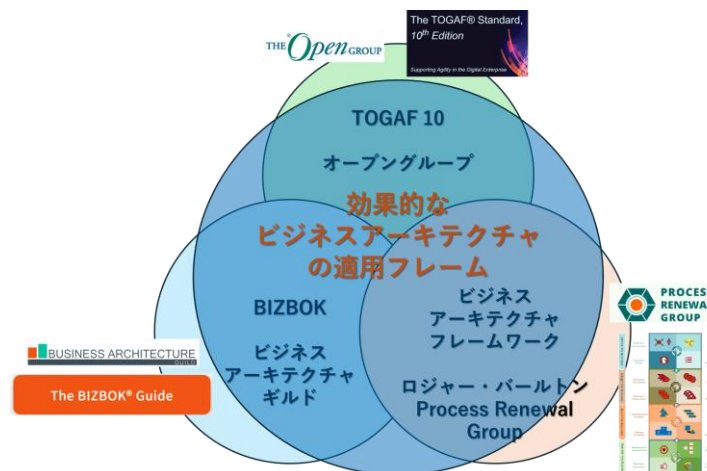
ビジネスアーキテクチャギルド(BIZBOK®提供団体) 正会員(2015年～)および翻訳ボランティア・オフィシャルメンバー

ロジャー・バールトン「ビジネスアーキテクチャ」書籍翻訳者(7/21発売予定)

グローバルなビジネスアナリシスカンファレンスであるbbcカンファレンスにおいて、2012年から10年以上にわたりビジネスアーキテクチャの議論に参加

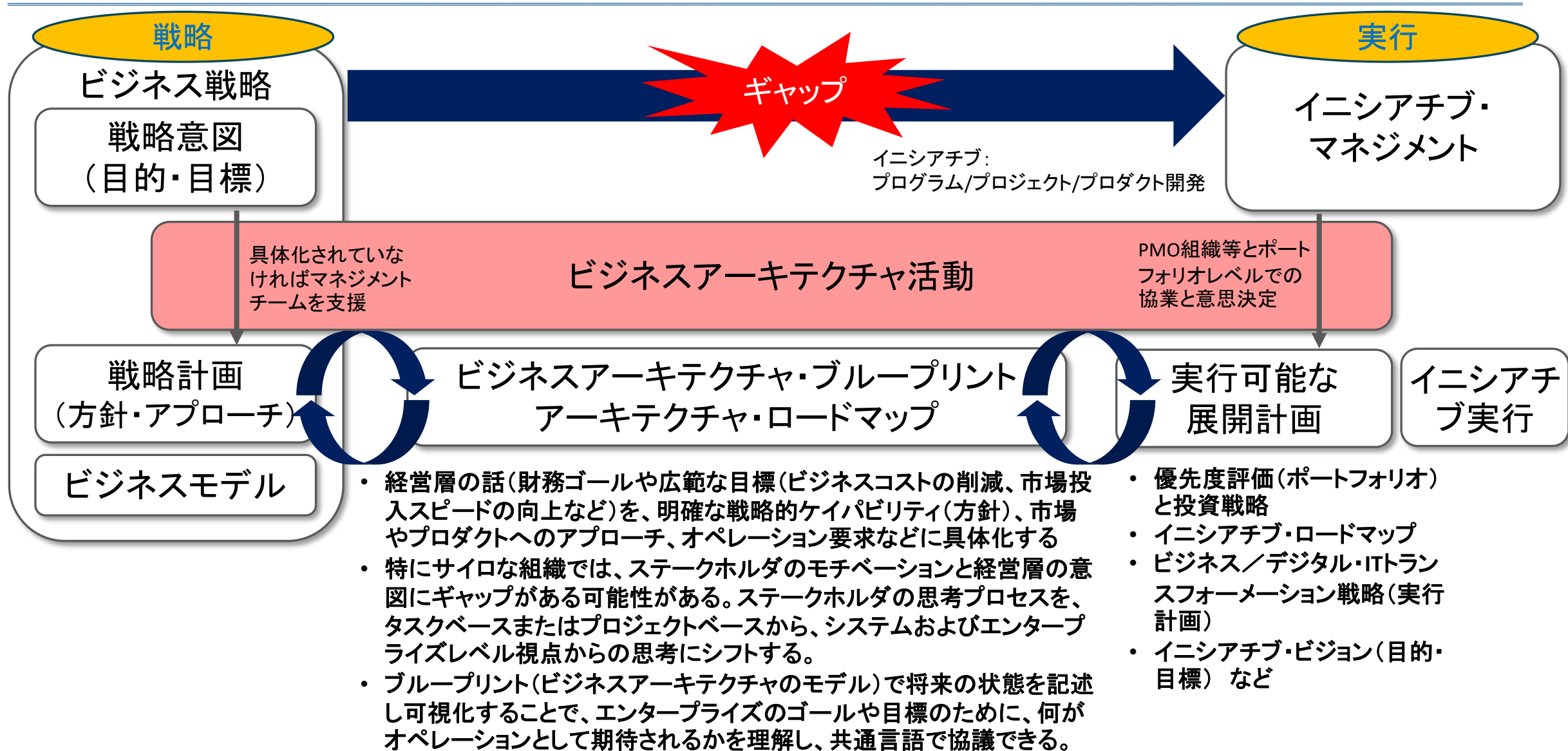
IIBA® Certified Business Analysis Professional (CBAP®)資格

IIBA日本支部理事



*ビジネスアーキテクトは、プロジェクト期間もガバナンス活動を行っていることに留意する

ビジネスアーキテクチャ・コミュニティにおける基本的な問題意識



bbc(building business capability)カンファレンスに見るBAにおける世界の関心の動向(1/2)



bbc(building business capability)カンファレンスに見るBAにおける世界の関心の動向(2/2)

2017

2018

2019

2020

2021-
2022

2023

2024

ビジネスアジリティの重要性
テクノロジー関連増加
デジタルトランスフォーメーションとアジリティの2つの流れに沿って、実行プラクティスとしてビジネスアーキテクチャ、ビジネスルール、ビジネスプロセス、ビジネスアナリシスが編成
ビジネスアーキテクチャ、ビジネスルール、ビジネスアナリシスの定番内容も存在

2017年のトレンドを踏襲
ビジネスアジリティやアジャイル(リーン、DevOps等含む)とデジタルに関連して、様々なビジネスアーキテクチャ、ビジネスルール、ビジネスプロセス、ビジネスアナリシスが編成されている。
まだデジタルはテクノロジーの紹介の要素が強い。

2018年のトレンドを踏襲
ビジネスアジリティとデジタルに関連して、様々なビジネスアーキテクチャ、ビジネスルール、ビジネスプロセス、ビジネスアナリシスが編成されている点是不変。
IIBAとして強化しているデータアナリティクスやサイバーセキュリティも増えつつある。

ビジネスアジリティとデジタルが大きな潮流であることに変化はない。
どう変化を起こすか、戦略実現、リーダーシップという観点からトラックとして強調された。
データアナリティクスやサイバーセキュリティは増加。
既存コミュニティ(TRAIL)に属さない発表が増加。

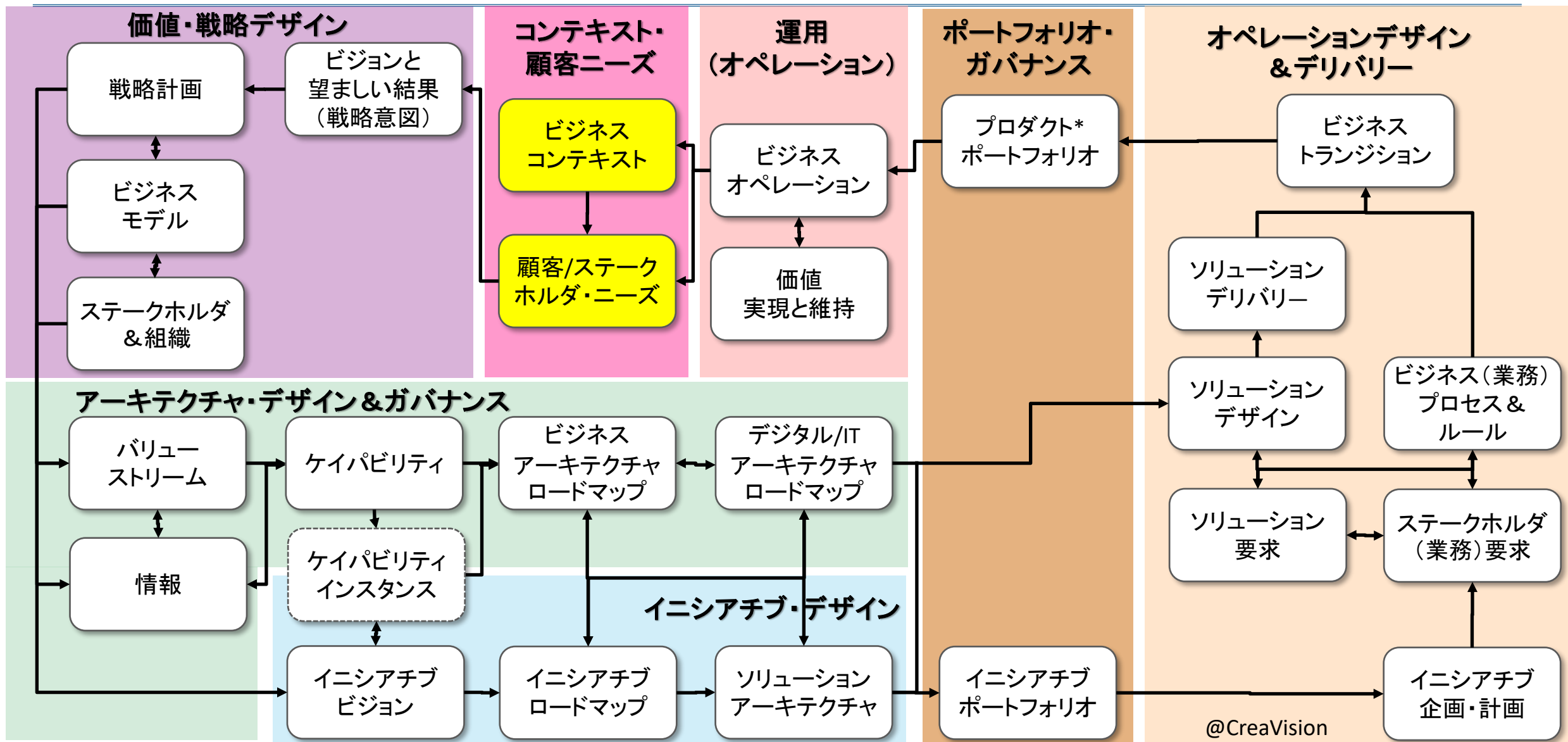
デジタル以前のトピックに少し回帰している印象だが、とくにプロダクトオーナーシップ関連が比較的多く、新しいサイバーセキュリティやデータ関連のトピックも増加。
ビジネスアーキテクチャやビジネスアナリシスの様々なトピックも多くみられた。

生成AIがもたらすBAへの影響が大きな議論テーマとして取り上げられる。
前年の傾向から続き、データドリブンなビジネスや組織運営に関するトピックも増加し、全体トピックとしては、ビジネスアーキテクチャやアジャイルBA(プロダクトマネジメントやプロダクトオーナーシップ)などの定番テーマが多くみられた。

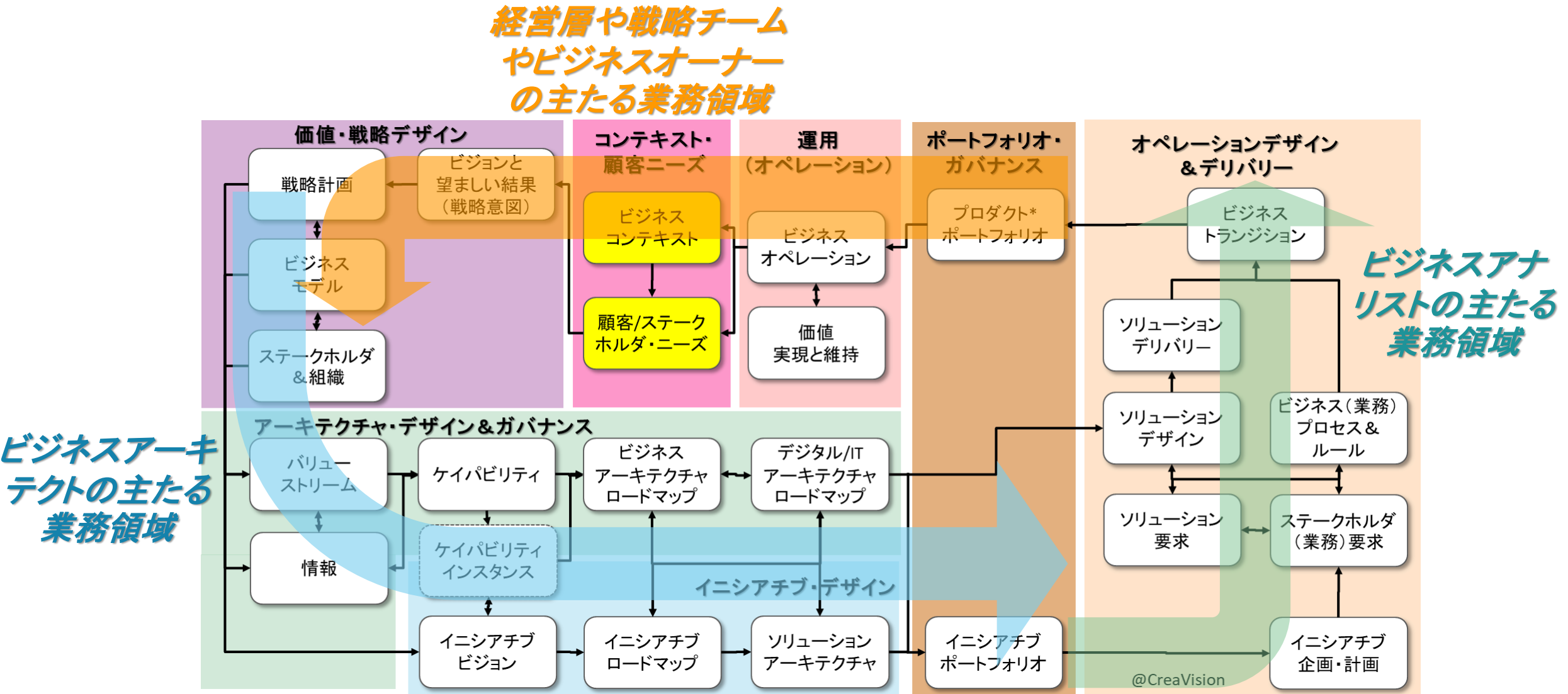
生成AIとBAの関連についてのトピックが1/4程度あり、将来のBAの姿についての考察も深まっていた。
前年の傾向から続き、データ、ビジネスアーキテクチャやプロダクトマネジメント、その他BAスキルなどの定番テーマおよびベーシックな内容の講演も多くみられた。

顧客価値創造のエンド・ツー・エンド・バリューチェーン

凡例: **スタート**

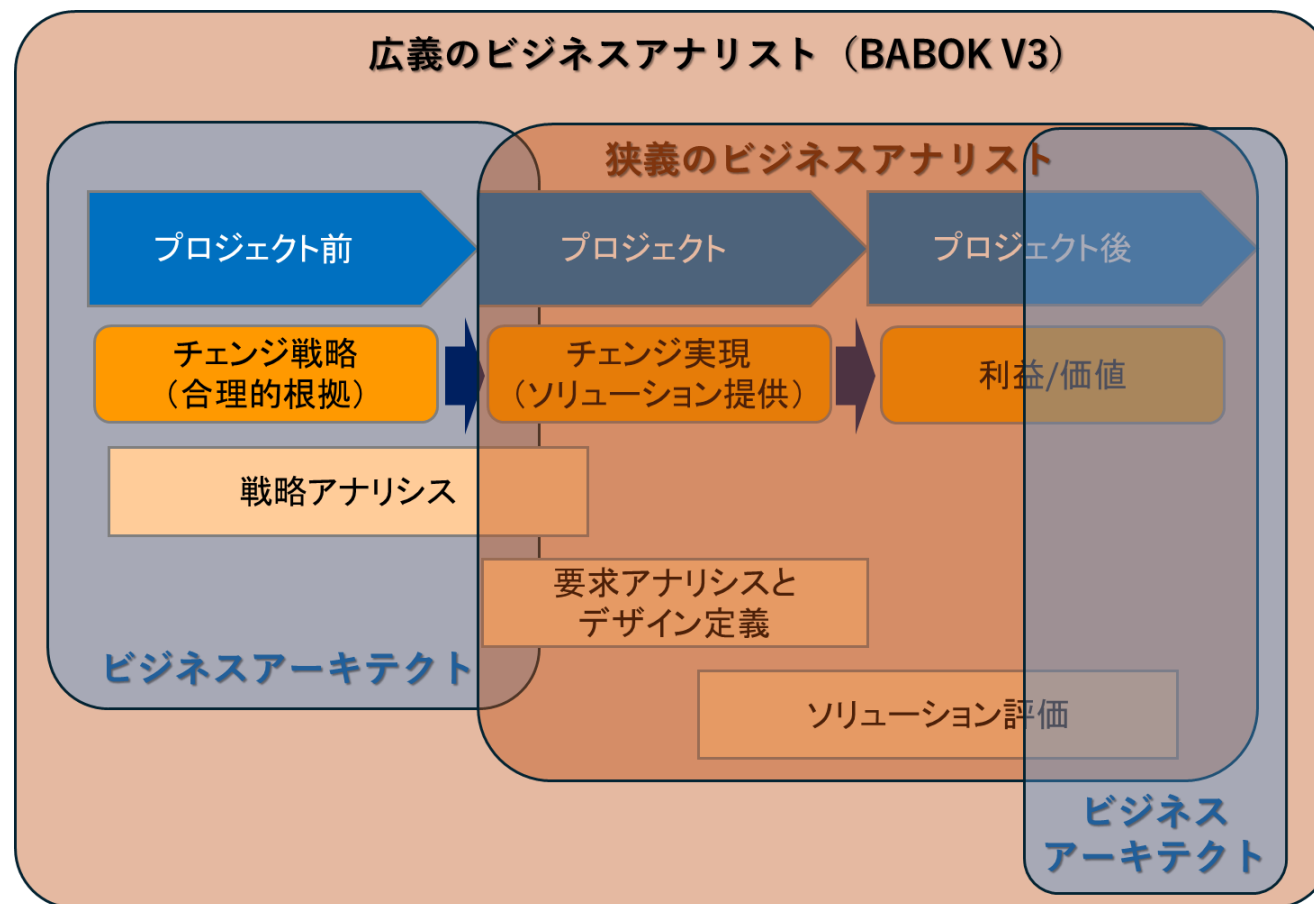


ビジネスアーキテクトとビジネスアナリストの役割における主たる活動領域の違い



(参考)ビジネスアナリシス・コミュニティでの考え方

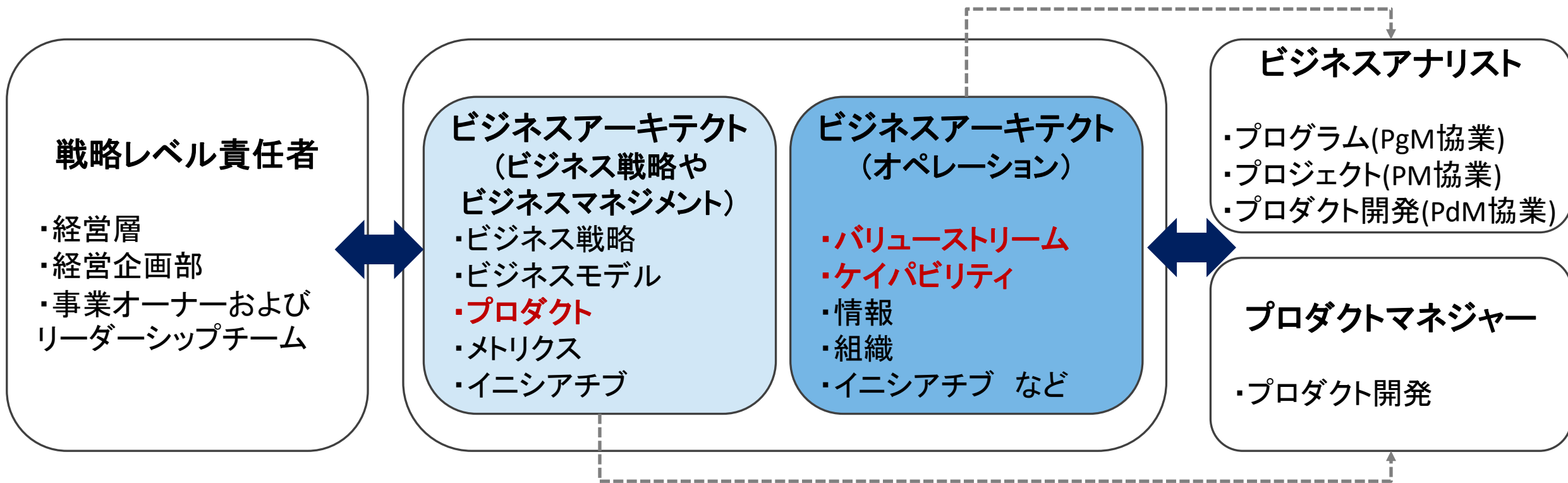
ビジネスアナリシス・コミュニティの最近の考え方は、ビジネスアナリシス活動は、プロジェクト期間に閉じることなく、プロジェクト前およびプロジェクト後も含めたソリューション(プロダクト)ライフサイクル全体で関わるとしている。



*ビジネスアーキテクトは、プロジェクト期間もガバナンス活動を行っていることに留意する

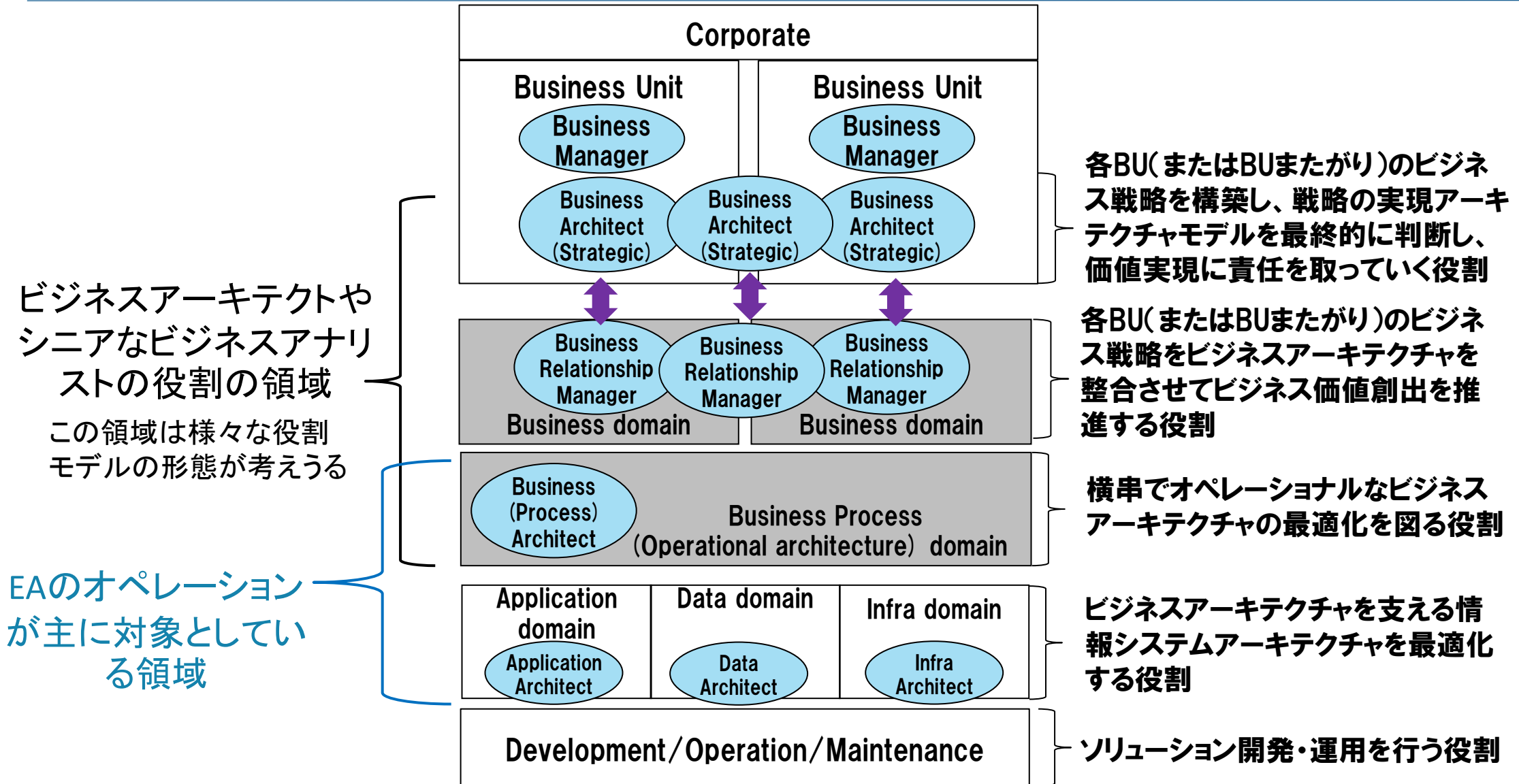
二つのビジネスアーキテクト

伝統的に、初期の企画されたオペレーション向けソリューションに対しては、プログラム/プロジェクトマネジャーとビジネスアナリストがアサインされることが多い

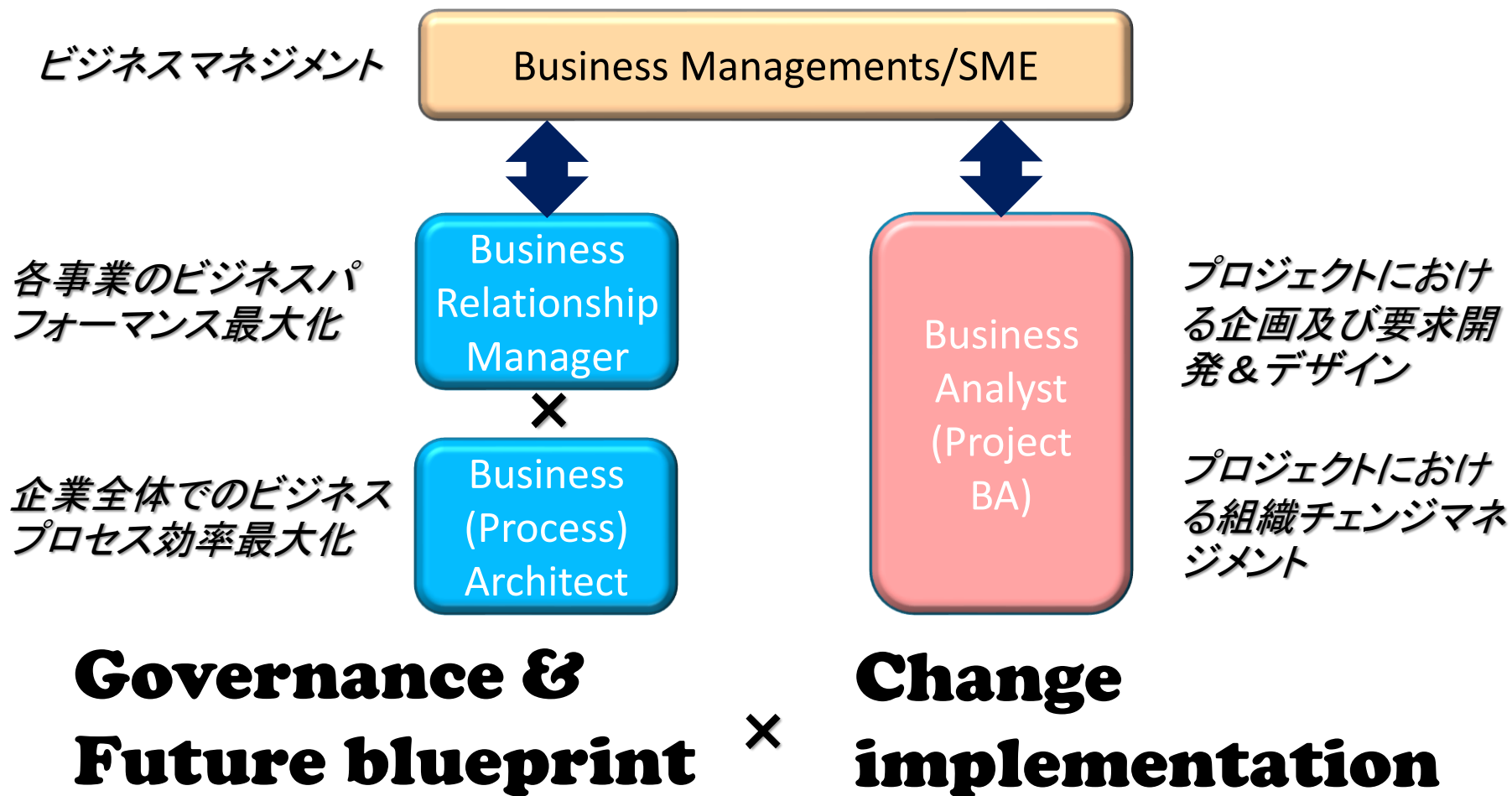


伝統的に、初期の企画された顧客向けプロダクトに対しては、プロダクトマネジャー（またはプログラム/プロジェクトマネジャー）がアサインされることが多い

ロール(役割)モデル例<定常業務>

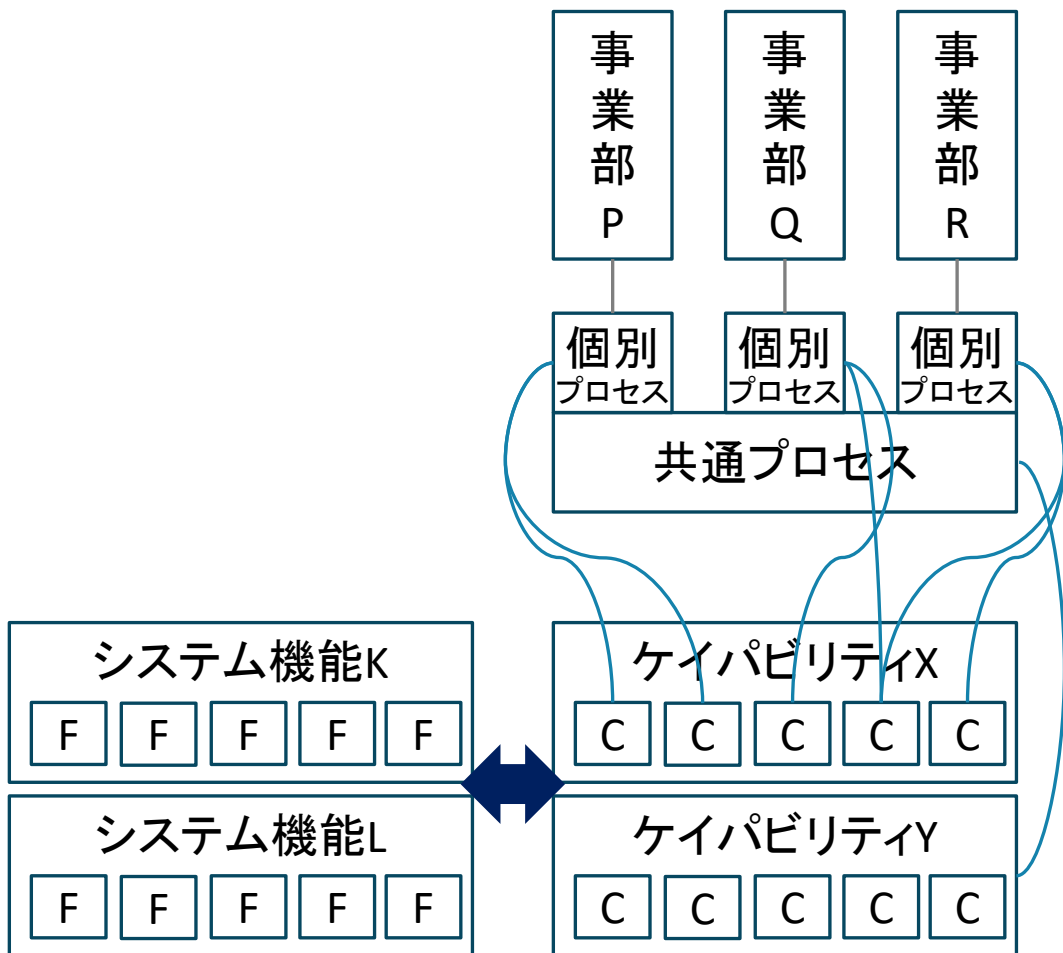


ロール(役割)モデル例<イニシアチブ業務(BA領域)>



ビジネスプロセスとビジネスケイパビリティなどは誰がケアする？

ビジネスプロセスやビジネスケイパビリティは、“ビジネス”と名がつくから、ビジネスグループが全ての説明責任と実行責任を持つ考え方が最も効果的なのだろうか



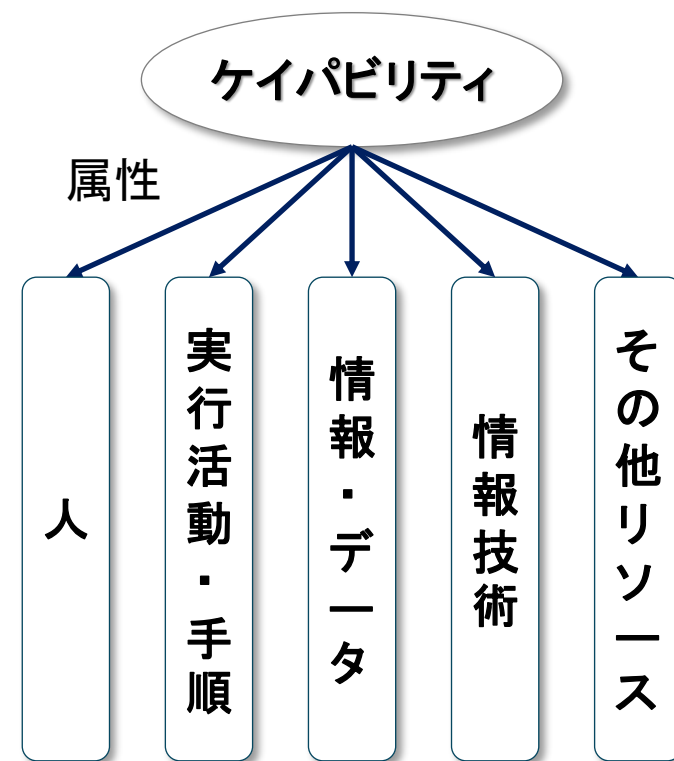
標準化・共通化・共有を意識したい

オーナーとマネジメントは別でもよいのでは

モデリングスキルが必要

部門を超えて共通の体系が欲しい

システム機能と密接に関わっている



ケイパビリティはさまざまな要素の構成物
それぞれ誰が責任を持つ？

参考

ビジネスアーキテクチャおよびビジネスアナリシスについての概要を理解できるように、以下のところで一式の情報提供をしていますので、概要理解が必要な場合はご参照ください。



https://note.com/crea_vision



https://crea-v.net/?category_id=684f5643e684981bbc16c152